

平成 30 年度 総務常任委員会 行政視察報告書

1. 視 察 期 間

平成 30 年 5 月 15 日（火曜日）～ 5 月 17 日（木曜日）

2. 視察場所・項目

①高知県黒潮町

- ・「犠牲者ゼロ」を目指した防災対策について
- ・シティプロモーションについて
(スポーツツーリズムによる街づくり)

②高知県須崎市

- ・人材育成塾「須崎未来塾」の取り組みについて
(NPO 法人暮らしすさき運営 「暮らしのねっこ」現地視察)

3. 参加委員

委 員 長	中 村 理香子
委 員	辻 田 明
委 員	末 益 隆 志
委 員	吉 村 啓 治

副委員長	毎 田 潤 子
委 員	委 員 広 瀬 明 子
委 員	委 員 宝 新

総務常任委員会 行政視察参考資料

■高知県黒潮町：「犠牲者ゼロ」を目指した防災対策について

平成 30 年 5 月 15 日（火）14 時から 16 時 30 分

① 市勢

黒潮町は平成 18 年に「旧佐賀町」「旧大方町」の合併。

- | | |
|--------|---|
| 1. 人 口 | 11,340 人（男：5,438 人 女：5,902 人） |
| | 15 歳未満の年少人口 960 人（8.5%） |
| | 65 歳以上の高齢人口 4,827 人（42.6%） |
| 2. 世帯数 | 5,519 世帯（人口・世帯数：平成 30 年 3 月 31 日現在） |
| 3. 面 積 | 188.58k m ² 延長約 35 キロメートルの美しい海岸線を有する町。 |
| 4. 予算額 | 97 億 5,000 万円（平成 30 年度一般会計予算） |
| 5. 議員数 | 14 人（定数 14 人） |

②視察概要

黒崎町では、東日本大震災後 1 年かけ有志者会議を行い、2012 年 3 月 31 日に内閣府からの地震新想定が公表され、その内容は、大変厳しいものだった。

「最大震度が 7、津波到達（1 m）8 分、最大津波高（熊野地区）が 34.4m（佐賀地域は 18m）、建物被害 6,300 棟、人的被害 2,300 人、1 日後の避難者数は 1 万人」この公表を受け、黒潮町の防災計画と対策事業をさらに見直さなければならない、想像を遥かに超える極めて厳しいものとなった。

では、黒潮町はどのような取り組みをしたか。職員総出で地域に入り町民からの意見を聞き、防災対策（地域のワークショップや防災訓練等）に関わったことが町民からの評価が高く、この評価が町の何の施策に対しても町民からの協力を得られることとなる。

今後の課題は施策を効果的、効率的に今後も継続性をもってできるか。ハードを活かし地域の中で何をしていくか。共助、これからは地区で考えてもらうステージとなる。人の心を見捨てずには結果は得られず、行政と町民との協力体制は不可欠である。

「犠牲者ゼロ」をめざす地震対策（ハード面）

- ① 職員地域担当制
- ② 避難空間の整備（津波避難タワー、津波避難誘導標識）
- ③ 戸別津波カルテづくり
- ④ 地域防災計画
- ⑤ 木造住宅耐震化等の促進
- ⑥ 応急器昨日配置計画
- ⑦ 避難所運営マニュアル化
- ⑧ 告知放送端末機
- ⑨ 町備蓄計画
- ⑩ 防災教育プログラム（H30 年度から）
- ⑪ 防災訓練の開催



黒潮町の全町民の共有することば
あきらめない 揺れたら逃げる。より早く、より安全なところへ。

「犠牲者ゼロをめざす取り組み 20の指針」 (ソフト面)

- | | |
|-----------------------|-----------------------------|
| ①防災教育・啓発 | ⑪住宅耐震等の対策 |
| ②学校施設整備 | ⑫防波・防潮堤及び河川堤防整備並びに漁港・港湾施設整備 |
| ③保育所施設整備 | ⑬産業防災対策 |
| ④拠点の公共施設 | ⑭防災地域担当制 |
| ⑤指定避難場所 | ⑮自主防災会の組織と機能の強化 |
| ⑥四国横断自動車道（佐賀～四万十）との連携 | ⑯孤立集落対策 |
| ⑦自動車を使った避難 | ⑰危機管理の備え |
| ⑧情報伝達システム | ⑱防災訓練 |
| ⑨災新技術の導入 | ⑲BCP と復旧計画の連結 |
| ⑩安全な住宅地の創生（高台移転等） | ⑳目標年次 |

◆主な質疑応答

- Q. 防災訓練参加率が60パーセントと高いが何が要因なのか。
- A. 町全体ではなく、班ごとに行ったことで、参加者の意識の持ち方に变化したことが考えられる。（不参加だと目立つ、隣同士声をかけやすかった、行政へ声が直接届く）
- Q. 防災教育プログラムは、黒潮町向けのものか。
- A. 黒潮町向けのもの。町内の学校の先生方で作った作業部会で議論をし、片田敏孝先生（防災研究者）から意見をもらい、3年をかけて作ったプログラム、子供たちが理解しやすいプログラムとなった。
- Q. 職員の地域担当制とあるが、職員はその地域に住んでしている人のか。異動によるノウハウの継承は。
- A. 地域担当制を始まりは、旧佐賀町と旧大方町が合併した際に行った。この時の目的は、相手を知ることから、交互の地域担当制を行った。

この役割は一旦無くなり、今回の防災計画において、防災職員だけでは難しく、地域担当制は必要となった。ただし、今回はより地域に密着が必要となり、基本地域に住んでいる職員が担当することとなった。職員がいない地域もある。ここは地元職員だけに頼れないし、また異動のたびに職員も代わる、代わっても全員が代わるわけではないので、信頼関係がある程度出来ていることから特段問題視していない。

Q. 各家庭に置かれた告知放送端末機は無償なのか。

A. 全世帯無償設置、無料配布。（家庭に届くまでの光端末設置は無償）

Q. 地区防災計画の説明を受け、地域とよく出てくるが、これは自治会としての単位なのか。そこの集落職員一人に対し、何世帯担当するか。

A. 集落単位。消防分団ごとに職員を配置、地区によって異なるが。ひと地区ひと分団だと手厚い対応ができる。

Q. 災害が夜間に起こった場合、避難タワー、避難路の照明はどうするのか。

A. タワー及び避難路は太陽光を利用して誘導出来る設備を設置している。

Q. 地区防災職員の具体的な役割。実際どのようなことを行っているか。

A. 年度当初に地区防災職員の会議を行っている。共通の取り組みテーマがあり、集落ごとに進めてもらっている。

地区職員は町民からの意見を聞き、こういうものが欲しいという内容を聞き取り調整。避難所マニュアル作成、会議進行等をしてもらう。

■高知県黒潮町：「シティプロモーション」（スポーツツーリズムによる街づくり）について

平成30年5月15日（火）14時から16時30分

①視察概要

黒潮町が、観光とスポーツを組み合わせ「スポーツツーリズム」を推奨している。町内に天然芝の球戯場や体育館を備えた県立土佐西南大規模公園を会場にしたスポーツ大会・合宿の誘致を2011年から開始。

スポーツツーリズムによる取組内容、天然芝、人工芝のサッカー場の見学をした。

天然芝サッカー場



人工芝サッカー場



黒潮町役場



スポーツツーリズムによる取組

- ・土佐西南大規模公園という高知県施設を活用して、何の競技を進めるか。
- ・施設の特徴と担当者の得意分野の一致（サッカー）
- ・地域の指導者、学校の指導者、県の競技団体との連携
- ・県内施設との連携（春野運動公園）
- ・町内宿泊施設との連携

一年目は関係づくりから始まった。地域指導者とのつながり、県のサッカー協会、運動公園施設との連携、宿泊施設の受け入れ等。

スポーツツーリズムによる取組をする上で大切にしていること

「つながりを大切に 裏切らない できないと言わない タイミングを逃がさない」
今後はスポーツと観光施設（ホエールウォッチング、川遊び体験等）の組み合わせによる（スポ割り）観光振興による効果の向上。黒潮町ならではの体験を情報提供及び発信を考えている。

◆主な質疑応答

Q. スポーツツーリズムにおける経済効果は。

A. スポーツ誘致をした平成 23 年度から年々増えている。

また平成 29 年度はプロ選手の受け入れをしたことから、一人当たりの単価費用が高いため更に上昇。（一人当たりの費用：宿泊料、懇親会費用、施設利用料）

（参考）初年度：平成 23 年度	宿泊数	357 人	経済的効果計	2,410,140 円
	平成 29 年度	11,821 人		100,427,864 円

Q. 人工芝にはスプリンクラー付いているか。

A. 予算的に考え、芝の質の高いものを選んだことから、スプリンクラーは付けることができなかった。

Q. 誘致をしたことで、地元のサッカーチームがグラウンド使用予約が取りにくいことがあるのか。

A. 大きな大会の際は譲ってもらう調整が必要だが、メリットとしては、地元チームは、外から来たチームと地元で交流戦や一緒に練習が出来る。

Q. スポーツ誘致案内先の NP0 砂浜美術館（旅行業営む）を利用した場合のメリットは。県の施設ということだが、県との連携は。

A. 大会の準備、ケガのサポート、施設の年間計画スケジュールの把握しているため、交流戦が簡単に出来る。

砂浜美術館は指定管理を受けているので、利用実績がともなえば、県からの管理費もついてくる。

■高知県須崎市：人材育成塾「須崎未来塾」の取り組みについて

(NPO 法人暮らしすさき運営 カフェ&宿泊施設「暮らしのねっこ」
現地視察)

平成 30 年 5 月 16 日（水）14 時 00 分～16 時 00 分

平成 30 年 5 月 17 日（木）9 時 30 分～11 時 00 分

①市勢

1. 人 口 22,114 人（男：9,494 人 女：10,138 人）
2. 世帯数 10,868 世帯（人口・世帯数：平成 30 年 3 月末日現在）
3. 面 積 135.44k m²
4. 予算額 132 億円（平成 29 年度一般会計予算）
5. 議員数 16 人（定数 16 人）

②視察概要

須崎市では、平成 26 年度（2014 年）に「須崎未来塾第 1 期生」募集の開始以来、「持続可能なすさきづくり」を目指して、消費ではなく創費（自らの労力などを費やして創り出すこと）のできる人材育成に取り組んでいる。

「須崎未来塾」において地域づくりの核になる人材を育成し、人的ネットワークを形成することで、地域づくりを活性化させ、新たな産業の創出と地域再生につなげている。平成 30 年度で 5 年目突入。4 年間で参加者は 100 人を超えた。その内、52 人が修了し、「須崎市地域再生マネージャー」として空き家を活用したゲストハウスやふるさと納税返礼品制度運営、須崎高校との地域連携など、未来塾の卒業生方がさまざまな場所で幅広く活躍している。

未来塾卒業生が現在活躍している「古民家素泊まり宿：暮らしの根っこ」、「まちかどギャラリー（市民グループ活動の場）」の現地視察をした。

「須崎未来塾」の効果

地域活動に意欲のあるメンバーの交流の場によって塾生同士、塾生と各団体とのネットワークが広がり、新たなコミュニケーションが生まれている。

（ワークショップや個展開催、すさき夢づくり応援団、農家レストラン、まちかどゼミナール）

いままでなら一人で考えて終わりだったことが、実現されていく環境に変わった。



カフェ&宿泊施設「暮らしの根っこ」



まちかどギャラリー内 市民交流の場

須崎市役所



◆主な質疑応答

Q. 塾生をどう集めるか。

A. 1 年目は、人集めには苦労した。人として目立っていて、町で常に活躍している人に声をかけていた。

昨年（29 年度）くらいからは、塾生同士のネットワークができ、さほど苦労せず集まった。何かやりたい人には、行政が関わっているから、入り口として入りやすい。後に残していく人材を集めている。

Q. 塾生脱落者はいるのか。

A. いる。100 人中 5 人ぐらい。

Q. 未来塾の予算はいくらか。

A. 年間で 250 万円。（講師一人当たり一回約 15 万円）

Q. ふるさと納税の収税アップの要因は。

A. 須崎市のマスコットキャラクター（ゆるキャラ）しんじょう君の活用および効果的な情報発信。